



登山中に、遭遇が心配される落雷、クマ、ヒルについて記入します。参考にしてください。

●落雷について

夏に発生する雷は、昼間の強い日差しを受け、地表で温められた空気が上昇気流に乗り、上空で結露して雪になる。さらに上空7000mの氷点下10～15度の雲の中であられになり、雪とぶつかるうちに雪に(+)、あられに(-)の電気がたまり、軽い雪は雲の上部に、重いあられは雲の下部に集まり、積乱雲の上部はプラス、底部はマイナスに帯電する。ある程度になると放電し雷が発生する。

1回の放電で電流は20万アンペア、電圧は2億ボルトになるという。落雷は上空から人を一直線にねらわず、空気中に数メートルづつ電気の通り道を作り、地上間近に進み、より高いものを選んでおちる。いきなり人の持つ金属には落ちない。雷鳴を聞いたなら車や建物に移動しよう。

屋外で雷にあったら

1. 避難場所の確保が困難なときは、最低限頭を抱えてしゃがみこむ。
2. くぼ地など低い場所を探して身を隠す
3. 雨宿りがてら高い木の下や小屋の軒先に立つのは危険。枝や屋根を伝って電気が流れ感電することがある。
4. 耳で聞く雷は15kmの範囲だが、AMラジオ放送は100km離れた雷でもカリカリ雑音が入る。
5. 民間の気象情報会社が、携帯電話のメールなどで情報を配信。受信ができる。

●ヤマヒル対策

ヒルは2000年以降急激に増えています。生息標高は500m以下の山里で湿ったところに多い。直接的な原因は、ヒルが取り付いた野生動物(鹿、猿、猪、熊)が里山に降ります。その状態が10年続けばヒルの分布が広がるようです。食いつ食われつで成立つ生物多様性の世界。そこに構成動物のヒトが入れば、食われるハメになります。

1. 足首までの長ズボンと厚手のソックスを着用。
2. ヒル侵入防止目的でキメの細かい女性用ハイソックス(100円ショップ105円で2枚)をはく、
3. ズボンの裾はハイソックスの中に入れ、登山靴を履きスパッツを付ける。
4. 出発前、膝から下にスプレーで塩水を吹きつける。
5. ヒル生息地では歩いていても靴から登る。時々立ち止まって確認する。見つけたら塩水スプレー、ストックやゆびで除去するが、吸盤があり指から離れないので注意。
6. ヒル生息地を抜けても気を抜かない。ヒルが付いている場合はこれから吸血が始まる。
7. 下山後は靴の中、スパッツ裏面、首廻り、腕時計のバンド部、指の間、背中、ウエストバッグの裏側、リュックなど目が届かない所を再チェック。メンバー同士で確認しあう。
8. 気がつかないうちにバスや電車の中、日帰温泉、家まで持ち帰るので注意。

ヒルに血をすわれたら

ひるの唾液に麻酔と血の凝固を止める性質がある。痛みを感じず血をすったヒルは自然に落ちるが、その瞬間から出血が始まり1～3時間続く。完治には数週間かかる。

1. 吸血中のヒルを強引にはがすと牙が残る。塩水スプレー、ライターなどで自然に落とす。
2. 血と一緒にヒルの唾液を搾り出し、水で洗浄します。
3. 不愉快なかゆみが残った場合。皮膚科の副腎皮質ホルモンが効果的との情報がありました。

塩水スプレーは安価で効果抜群。ツアーで実践しました。

市販のヒル除去剤があります。多人数ツアーにはペットボトルに溶解度ギリギリ約25%の食塩水と、100円ショップで園芸用の2個105円のスプレー装置を購入し準備完了。塩水スプレーは安価でヒル落しに効果的だがヒルは死なない。個人装備で塩や小さな携帯スプレー持参もお勧め。

●クマに出会ったら

クマの本来の生息地は奥山で、冬眠に備えて秋にブナ・ミズナラなどのドングリを大量に食べます。ブナやナラは周期的に不作になり、最近ではカシナガという虫が媒介するナラ菌が繁殖しナラ枯れが急速に拡大しています。クマはえさを求めて里地に下り人々に迷惑をかけます。

対策として、クマ出没情報のある山は避ける。通らねばならない時は、鈴やホイッスルで人の存在をクマに知らせる。クマは臆病で追い込まれない限り、人を襲うことは少ないといわれます。クマに会ったらあわてず静かにクマの目を見てゆっくり後退。大声で威嚇したりいきなり逃げるのは危険。リュックを置いてクマの気をそらすのもいいといわれます。

